

算命学中庸

【初年】60回目

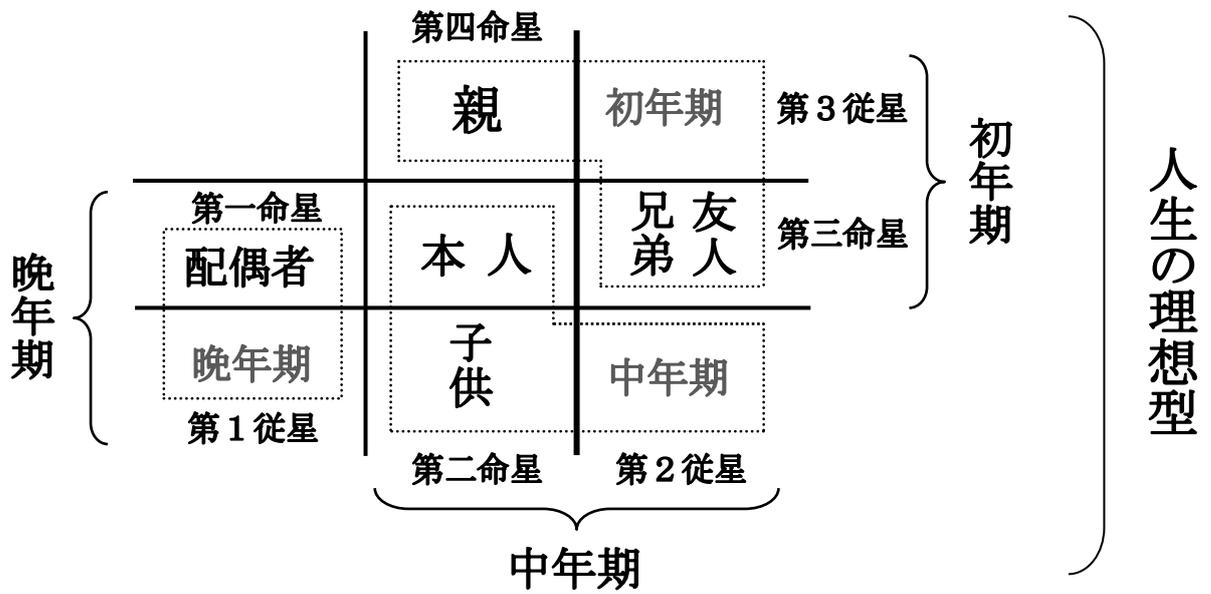
60回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】(6)

・【初年】60回目【天中殺論(6)】「陽占天中殺」01

□ 陽占天中殺 (ようせんてんちゅうさつ)

陰占と陽占の関係を知っておくことが大切です。



(1) 人体図で「年干支」の星は、第四命星・第三命星・第3従星の場所にでてきます。

	第四命星	第3従星
		第三命星

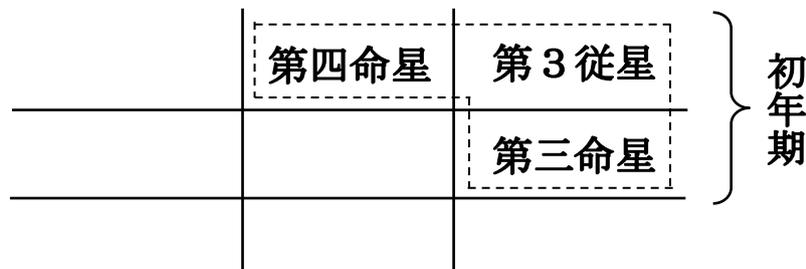
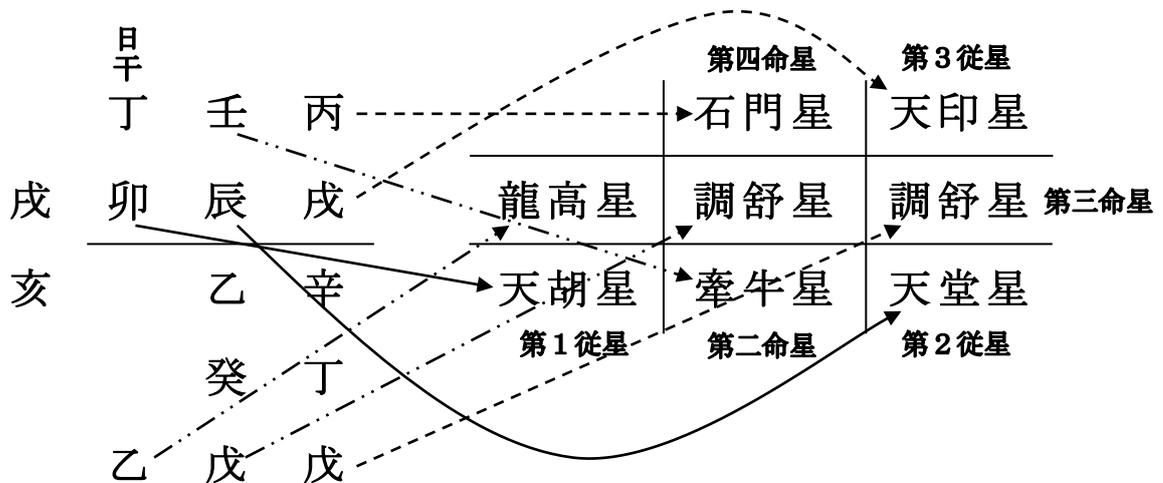
(2) 「月干支」の星は、主星・第二命星・第2従星の場所にでてきます。

(3) 「日干支」の星は、第一命星・第1従星の場所にでてきます。これらは三分法の考えにもなります。

🔍 (1)(2)(3)の見方は **十大主星表** と **十二大従星表** を参照。

✳ 大月 みやこ (演歌歌手) 1946-4-23 「生年中殺」

宿命(1) 大月みやこ



(1) 人体図で「^{ねんかんし}年干支」の星は⇒第四命星・第三命星・第3従星の場所にでてきます。

日干「丁火」から年干「^{へいか}丙火」をみると第四命星〔石門星〕。

日干「丁火」から年支（^{いぬど}戌土）の本元〔^{ぼど}戊土〕をみると第三命星〔調舒星〕。

日干「丁火」から年支（^{いぬど}戌土）をみると第3従星〔天印星〕。

(2) 「月干支」の星は⇒主星・第二命星・第2従星の場所にでてきます。

日干「丁火」から月干「壬水」をみると第二命星〔牽牛星〕。

日干「丁火」から月支（辰土）の本元〔戊土〕をみると、主星に載る星は〔調舒星〕になります。

日干「丁火」から月支（辰土）をみると第2従星〔天堂星〕。

(3) 「日干支」の星は⇒第一命星・第1従星の場所にでてきます。

日干「丁火」から日支（卯木）の本元〔乙木〕をみると、生じられて第一命星〔龍高星〕。

日干「丁火」から日支（卯木）をみると第1従星〔天胡星〕。

☞ これらの見方は ⇒ 三分法の考えにもなるわけです。

参照⇒【人体図三分法】は【初年】47回目20ページ。

☞ 人体図上で中殺を受けるのが陽占天中殺です。

「生年中殺」年干支の陽占の場所が中殺されます。

宿命(2) 年干支

	第四命星	第3従星
第一命星	主星	第三命星
第1従星	第二命星	第2従星

「生日中殺」第一命星と第一従星の場所にでている星が中殺を受けます。

宿命(3) 生日中殺

	第四命星	第3従星
第一命星	主星	第三命星
第1従星	第二命星	第2従星

中殺には「不完全」「意図しない状態」「不自然」という意味があります。

このような意味合いを、十大主星のそれぞれの星のなかに取り込んでいったものを「じゅっだいしゅせいてんちゅうさつ十大主星天中殺」といいます。

宿命(4) 十大主星中殺

十大主星中殺

① 貫索星中殺

がんこ 頑固 ⇒ いっかんせい 一貫性がなくなる。一貫性がなくなりながら頑固を發揮する。そのため、まわりの人が振りまわされる。

好かれる場合と、嫌われる場合がはっきり分かれる。

独立 ⇒ 独立独歩の生き方をすると波乱が多くなる。

人物 ⇒ 兄弟・友人中殺。

② 石門星中殺

きょうちょうせい 協調性 ⇒ 協調性が本人の意図しない方向へ向かいやすい。交際を望まない人との付き合いが多くなり、望む人との付き合いがそえん疎遠になっていく。

いずれにしても、人間関係での苦勞が多くなる。

それゆえ「人間関係で苦勞して当たり前」という気持ちが必要である。

人物 ⇒ 兄弟・友人中殺

③ 鳳閣星中殺

のんびり ⇒ のんびりしてはいけないときにのんびりし、
のんびりして良いときに気ぜわしくなる。

本人が自然に・素直に生きようとすればするほど、不自然な態度・行動となる。

それは仕方ないこととして、気にしないことです。

人物 ⇒ 子供・目下中殺

④ 調舒星中殺

くうそうりよく 空想力 ⇒ わく 枠が外れ、自由な空想となる。

空想が勝手にどんどん広がるため、現実離れした精神状態になりやすく、現実と空想との差が大きくなりすぎると、ノイローゼなどにつながる。

神経質 ⇒ 感情を自制しにくくなる。感情をだすまいとすると出てしまい。感情をだそうとすると出なくなる。

人物 ⇒ 子供・目下中殺

〔鳳閣星・調野星中殺〕は寿命中殺・未来中殺などの意味もある。

⑤ 禄存星中殺

愛情 ⇒ 魅力が本人の意図しない出方となるため、好きでない人から好かれ、好きな人には気持ちが伝わりにくい。そのため好きでない人との結婚になりやすい。

人物 ⇒ [父親中殺] 父親は本来・家長であるため、父の運気は直接家系の運気に影響を及ぼす。そのため父の恩恵おんけいを受けられないことは、家系そのものが下りのときに生まれてきたのか、あるいは、もし恩恵を受けた場合は本人の宿命が活いきてこない。そのいずれかとなる。

⑥ 司禄星中殺

家庭 ⇒ 不安定な家庭となる。具体的には配偶者が役目を果たしにくい状態となる、あるいは配偶者と不仲ふなかとなる。それゆえ、結婚運が良くない人の結婚の姿（国際結婚・年齢差の大きい結婚など）に向いているともいえる。

堅実・蓄積 ⇒ 司禄星にはこの意味があるゆえに、司禄星中殺の現象はすぐには現れにくく、物事がある程度蓄積されてから出てくることになる。

人物 ⇒ 妻中殺

[禄存星・司禄星中殺] は財中殺などの意味もある。

⑦ 車騎星中殺

行動力 ⇒ 意図して行動するときにはぎこちなく、うまくいかない。無心でいるときは超人的な行動力を出せる。

そのためスポーツ選手・軍人・冒険家として大成できる。

決断力 ⇒ 意図して決断しようとするとき中殺現象が現れる。つまり、大事なところで迷いが多くなり、肝心なときに決断力が鈍ることになる。

人物 ⇒ 偏夫^{へんぶ}・男性中殺

参考：意図〔なにか目的があって、積極的にそうしようと考えること。〕

⑧ 牽牛星中殺

家庭 ⇒ 司禄星中殺とおなじ。

真面目 ⇒ 不満があっても、それを表面に出さず真面目に努めようとするが、不満が限界に達したときに、突然不満を外へ出す。

家庭や仕事においても、はじめは体制に従うが、最終的には体制を変化させるか、または体制を裏切ることになる。

人物 ⇒ 夫中殺

※ 車騎星・牽牛星中殺 = 名誉中殺

⑨ 龍高星中殺

改革心 ⇒ 改革には創造と破壊が伴うものであるが、中殺されるため不自然な創造と破壊を繰り返す。

つまり、環境が安定してくるとそれを破壊する人となり、環境が不安定になると、それを安定させようと新しいことを創造しようとする。

〔環境安定⇒精神不安定〕 〔環境不安定⇒精神安定〕

人物 ⇒ ^{へんぼ}偏母・目上中殺

参考：創造〔新しいものをつくりだすこと。〕

⑩ 玉堂星中殺

知恵 ⇒ 知恵がまわるときと、まわらないときの差が大きい。知恵を^{はたら}働かそうとすると出なくなり、知恵を出そうとしないときのほうが知恵の働きがよい。

学問 ⇒ 主流でない学問、変わった分野の研究に向く。

人物 ⇒ 母中殺（親中殺）

☞ 11頁ページからは、より詳しく各星の中殺を記載しました。

宿命（5）十大主星中殺の出方

参考：出方〔ある事柄に対する対処のしかた。〕

① 貫索星中殺

十大主星の貫索星が中殺されるのを、貫索星中殺といいます。

貫索星は頑固です。貫索星の頑固は、何かひとつのことを成^なそうとおもうと、障害があってもそのことをやり通そうとします。

^{かたく}頑^なに意地を張るというのは、頑固ではありません。それは貫索星の無い人がするやり方です。

〔たとえば〕貫索星をもつ人が、学者でも音楽家でも目的意識はなんでもよいのですが、目的を定めたら、どんなことがあってもやり通そうとします。

ところが、貫索星が中殺されると、貫索星が不自然になります。

本人は音楽家になろうという決意で、長い時間を費やし、さまざまな方法を駆^く使^しして、最後までやろうと張り切った気持ちでいたのに、途中で挫折してしまい、ほかの目的に向かおうとして、気持ちの指針を変えてしまうとかです。

〔たとえば〕㊦さんの頑固の質は変わりませんが、㊦さんが成し遂げようと始めたことに、協力をして行動を共にしてきた人達にとっては、㊦さんの目的意識が変わってしまったために、振り回されたことになります。

今までは——この道を行くといっていたのに、途中で、『こっちへ行こう』と言い出されたら、まわりの人たちは振り回されるわけです。

しかし、本人の頑固さは変わらずに、「私は私の道を行きます」と突っ張ります。

貫索星の本来の質としては、「私は音楽家の道を進みます」といったら、そこにどのような試練があっても突き進^つもうとします。

しかし、貫索星中殺の人は『目標を途中で変化したことに対して頑固さを発揮する』という特徴があります。「私は私のやり方で方向転換して行く」という頑迷^{がんめい}さです。これは一貫性のない頑固さといえます。初めから終わりまで、ひとつの考え・思いを貫き通すということではなくなります。

そのため、まわりの人は振り回されるということが起こります。中殺を受けているために、いろいろな物事に対して、気が変わりやすいのです。

参考：頑迷〔かたくなで、正しい判断ができない。〕

参考：突き進む〔障害などをものともしないで進む。〕

本人としては気持ちを変えようとして、変えているわけではないのですが、気を変えまいと、思えば思うほど変わってしまうということが起ります。

このような不自然な現象が起こします。

〔たとえば〕友達になろうとおもうと、その思いが強ければ強いほど、その人との付き合い方に途中で変化が生じます。なにかの弾^{はず}みにその人を恨むとか、悪口をいうとか、そのようなことを起こします。

そして『こういってはじめてけど、それを変えただけ……』と主張します。

誰が言っても変えないとする姿勢は、他人^{ひと}の意見や忠告を聞き入れない人物だということになります。

このような現象は、大運天中殺でも宿命天中殺でもおなじように出やすいのです。

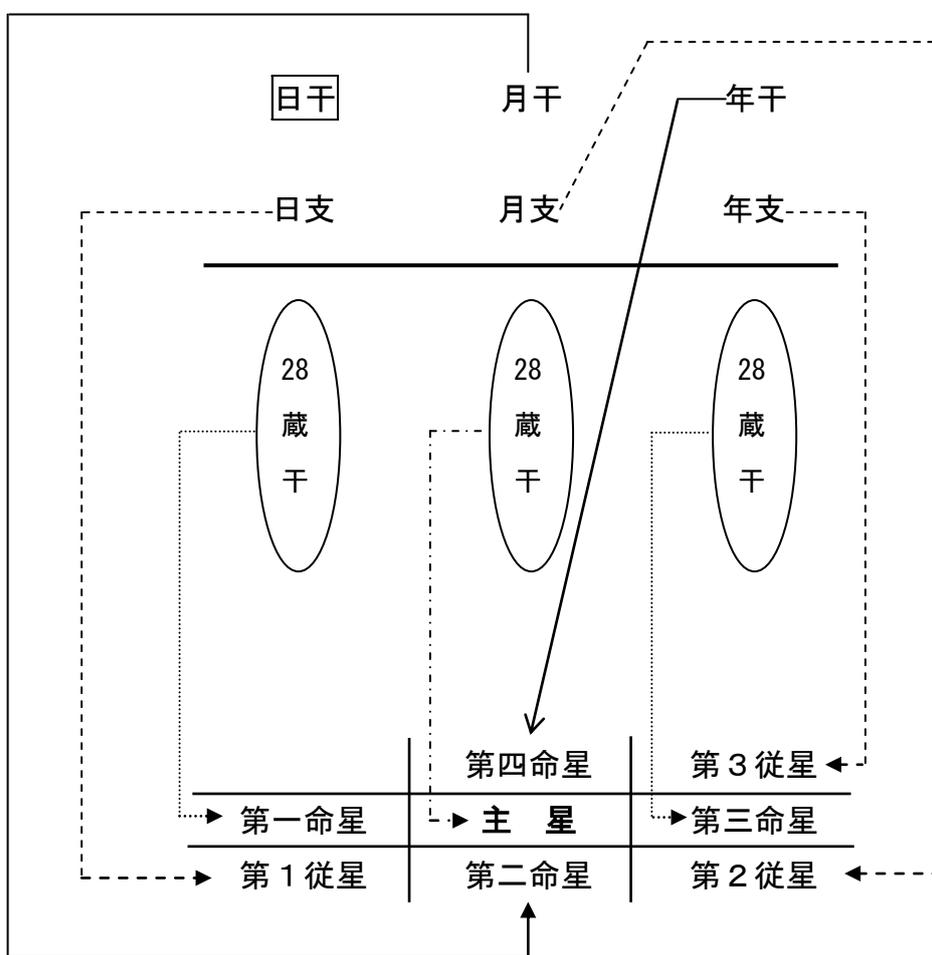
宿命天中殺の場合は『一生涯』そのようになります。

主星の貫索星中殺が1番強い出方になるといえますが、どこにあっても似たり寄ったりの出方です。

人体図に貫索星が2つあって、2つとも貫索星中殺の場合は、その現象がより強く出ます。

〔たとえば〕日干支「^{へいかのねすい}丙子」の人は^{さるとりてんちゅうさつ}申酉天中殺です。
 場所はどこでもよいのですが、「^{へいかのさるきん}丙申」か「^{へいかのとりきん}丙酉」
 をもっていると、貫索星中殺になります。
 場所を問^といにかけていません。

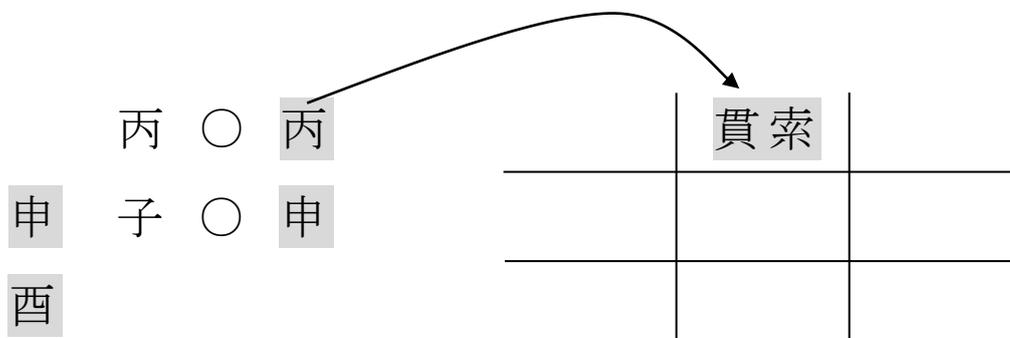
〔星の変換〕陰占から陽占



	年干	年支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日支	月干	月支

☞ 日干「丙火」から——年干の「丙火」をみると、
〔貫索星〕で第四命星にでます。

貫索星中殺 ①



場所には場所それぞれの意味がありますが、十大主星中殺の場合……場所は一切問いかけていません。
「このようにでてきます」といっているだけです。

☞ 「生年中殺」の場合には、初年期の場所の星全部が中殺を受けるということです。

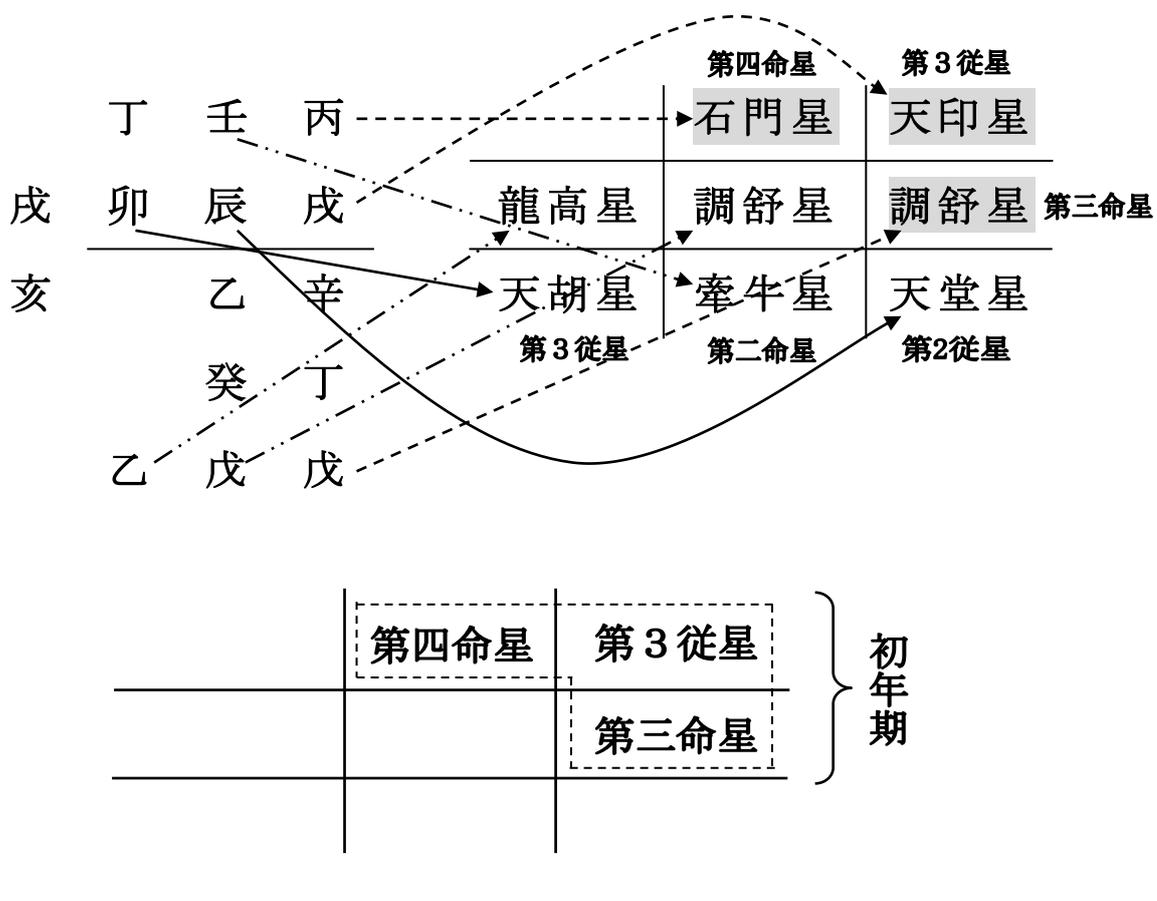
生年中殺			} 初年期
	第四命星	第3従星	
第一命星	主星	第三命星	
第1従星	第二命星	第2従星	

しかし……十大主星の貫索星中殺の場合は、初年期
だけではありません。 「一生^{いっしょうちゅうさつ}中殺」です。

🔍 参考にしてください。

✳ 大月 みやこ (演歌歌手) 1946-4-23 「生年中殺」

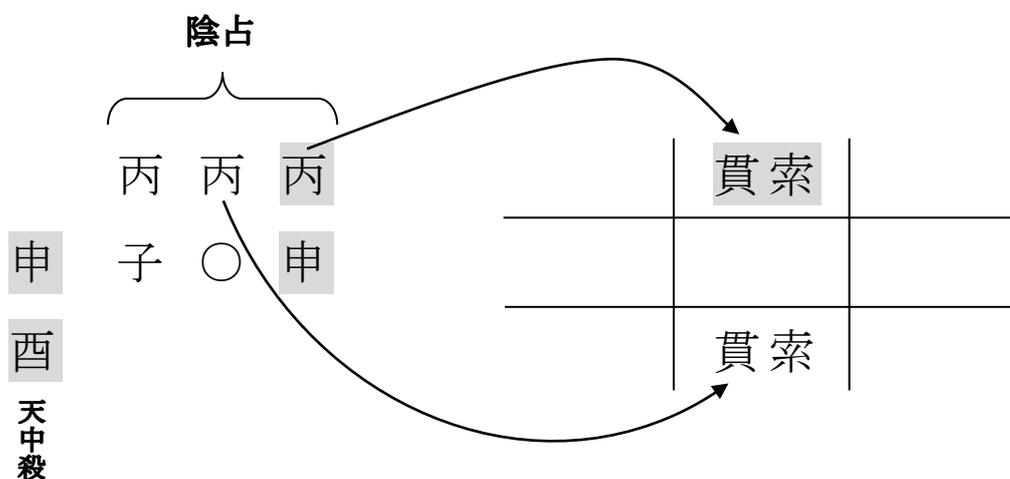
🔍 03 ページとおなじ人体図です。



〔貫索星〕には、人物では兄弟・友人の意味があります。兄弟・友人中殺ということは、兄弟・友人に頼れない。という現象が起こります。兄弟・友人と不自然・不完全な関係になります。

- ❖ 日干の「丙火」から、年干の「丙火」をみると、星は貫索星で第四命星にでます。
- ❖ 日干の「丙火」から、月干の「丙火」をみると、星は貫索星で第二命星にでます。

貫索星中殺 ②



貫索星中殺 ② 陰占は月干にも「丙火」があります。

月干にあるのが「丙火」でも「丁火」でも、陰陽は異なりますが、人物で兄弟という意味はおなじです。

ここでは月干「丙火」の貫索星で話を進めます。

日干支「丙子」は申酉天中殺ですから、年干支の「丙申」は中殺されています。その中殺されている年干「丙火」は人体図の第四命星に貫索星として出てきますが中殺されています。

人体図をみてわかるように、第四命星の貫索星（兄弟）は中殺されています。しかし、第二命星の貫索星（兄弟）は

中殺されていません。どういうことなのかといえは……

日干の「丙火」と【縁のある兄弟（中殺されていない兄弟）】と
日干の「丙火」と【縁のうすい兄弟（中殺されている兄弟）】が
いますよ。このように判断するわけです。

貫索星中殺 ㊸ の場合は、中殺されている兄弟と、中殺
されていない兄弟がいる。と観るわけです。

〔たとえば〕兄の太郎と弟の次郎の兄弟がいます。

太郎は貫索星中殺をもっていますが、次郎は貫索星中殺を
もっていません。

このような状態の兄弟の場合……兄弟でありながら、お互
いに相手を理解できないのです。

お互いに『変な奴だ』とおもうわけです。

なぜかといえは——異質の世界なのです。

『変な奴だ』と思われなくなかったら、貫索星中殺その
ものが備えている……もともとの意味合いを探ればよい
わけです。

（とは言っても……算命学を知らなければ理解できないでしょう。）

貫索星中殺をもつ兄の太郎は〔弟の次郎と縁が薄くて当
たり前だ〕という感覚をもって、弟と接しないといけない
のです。それが兄の太郎がするべき受け身の姿です。

さきほど「^{いっしょうちゅうさつ}一生中殺」ですと書きましたが、天中殺は受け身の姿がよいのです。

「^{いっしょううけみ}一生受け身」というのは、すべての物事に対してということではありません。

中殺の対象が〔兄弟〕とでたら、兄弟に対してだけ受け身ですから、ここでは〔弟・次郎〕のいうことに反発せずに従えばよいのです。

太郎は兄ですが『自分はこうおもうけど……』と、言わないのです。

『自分はこうしたい……』と言わないことです。

受け身の姿は——自分を^{おしだ}押し出す必要はないのです。

太郎が積極的に自分を前に出すようになると、その途端に兄弟仲が悪くなります。

おなじ貫索星をもっている、中殺をもつ人物と、もたない人物がいた場合は、中殺をもたない人物が^{しゅたい}主体になって、兄弟間の事柄を取りまとめればよいわけです。

参考：主体〔行動の担い手として意志をもって他に影響をおよぼすもの。〕

〔たとえば〕冠婚葬祭とかで、兄弟のなかで、誰の意見を重視すれば物事がまとまる。ということもあります。

〔たとえば〕結婚ということでは……貫索星中殺の人物は、考えをパッと変えたり、途中で方向転換をしたり、なにか問題があると、意地を張り通して、意固地にもなりますから結婚相手は苦勞をします。貫索星中殺の人と結婚すると、相手は振りまわされることにもなります。

それゆえ、振りまわされても大丈夫な人と結婚するのが^{あいしょう}相性です。

つまり、おなじ中殺をもつ人、あるいは、身強の人なら振りまわされてもエネルギーがあります。

身弱の人は振りまわされると大変です。

身弱は最短距離をいかないと駄目なのです。それが人生の目的があれば、できるだけ真っ直ぐに進んで行くことです。

いくつも進んでゆく^{みち}途があるでしょうが、身弱の人はどんなに遠回りしても、1回しか行けません。

エネルギーが弱いのでやり直しがきかないのです。

身強であれば、近道だとおもって途中まで進んで来て、凸凹な道で無理だとおもえば、遠回りになるけども引き返して、ほかの道を進むだけのエネルギーをもっているわけです。

貫索星には独立独歩の質がありますが、貫索星中殺で独立独行どくりつどっこうの生き方をすると、波なみのうねりが大きくなり、その状態に変化が起こります。

つまり、なにかをするさい際に、自分の好きなように、自分の都合だけを考えて、あっちへ行き、こっちに行きという生き方をすると、紆余曲折うよきよくせつが多くなり、不安定な状態になります。

それゆえ、多人数のところにいるほうがよいのです。決め事も多数決とかであれば、独善的になりやすい貫索星中殺を緩和かんわしてくれるといえます。

参考：独立独行〔他人に頼らず、自力で自分の信ずるところを行うこと。〕

参考：紆余曲折〔事情などが込み入って変化すること。〕

参考：緩和〔ひどい状態が治まって、今までより楽な状態になる。〕

② 石門星中殺

石門星の人物としては、兄弟・友人中殺です。

貫索星中殺・石門星中殺は、兄弟・友人に頼れないという意味があります。

協調・協和という持ち味は石門星の特徴です。

まわりと集団をつくる質を有しますから、組織づくりが上手です。と説明しました。

しかし……石門星中殺は資性しせいが中殺を受けますので、自分の望む方向に物事が進まなくなります。

“交際したい”と想う人が離れていってしまうとか、交際したくない人に頼られるとか、自分が求めない人物が寄って来るということも起こります。つまり、石門星本来の質が不自然・不完全になるためです。

参考：協調〔利害・立場の異なる者が互いに譲り合って協力する。〕

参考：協和〔二人以上の者が共同して仲よく物事を行うこと。〕

参考：資性〔生まれながらにもっている才能や性質。〕

協調・協和というのは、集団における人と人の付き合いとか、個人と個人との人間関係で築かれていますが……それが思ったとおりになりません。

協調したいと願い、想っても、思いどおりにならない。ということが起こります。

それゆえ〔想わない・思わない・願わない〕ことです
石門星中殺はどうしても人間関係で苦勞しますから、
それらの事柄に思いわずらわないことです。

あるいは〔人間関係で苦勞するのは当然だ……〕という
心持ちで接してゆくことです。

石門星中殺は人間関係で苦勞しますから、幅広い人間関係
をもたないで、付き合いの範囲を狭くすれば苦勞は軽減し
ます。しかし、石門星本来の質を發揮できなくなります。
それは困るわけです。

なぜ困るかといえば、中殺を受けていても、石門星の
資性^{しせい}は協調・協和の星だからです。

たとえ中殺されて不自然な石門星を^い生かさなくては
いけないわけです。

中殺をうけて不自然な状態の石門星を^い活かすには、
対人関係の潜在的な意識^{いしき}のはたらき〔好き嫌い・^え選り
好み・差別〕とかを^{ちゅうぜつ}中絶させると、大勢の人達と付き
合えるという状態が生じることがあります。

中殺というのは、ふつうではない異常な状態ですから『人と付き合う範囲（交際範囲）が以前よりも拡大する』
という良さにつながるかも知れません。

しかし、自分の意志を強く押し出すと、どうしても中殺現象が激しく出現^{しゅつげん}して不完全になります。それゆえ『人間関係で苦勞・悩むのは当たり前』だと、開き直って生きることです。

参考：潜在的〔なかに隠れた状態で存在するさま。〕

参考：意識〔ある物事に対してもっている見解、感情などの心の内容。〕

参考：中絶〔人との関係や交際を途中でやめてしまうこと。〕

参考：どうしても〔どのようなやり方をしても。いやでも応でも。〕

参考：出現〔あらわれ出ること。〕

石門星の人物は兄弟・友人中殺です。それらが中殺されていますから、兄弟・友人と縁^{えん}が薄^{うす}いです。中殺されて縁が薄いということは、それらの人間を頼らなくても、生きて行くことができる^{たくま}逞しい人でもあるのです。

協調・協和が不自然になりますから、“人嫌い^{じんぎら}”になりやすいともいえます。

それは自身で乗り越えていくことになります。

参考：人嫌い〔他人とのかかわり合いをきらうこと〕

〔接触する人をえり好みすること。〕

③ 鳳閣星中殺

鳳閣星中殺は『のんびり』が中殺されます。

それはどういうことなのか……落ちつかなくてははいけない。とおもうときに落ちつけないのです。

〔たとえば〕人々の前で話さなくてははいけないときには落ちついて、人様が理解できるように伝えたいとおもうわけです。

そうすると“あがってしまう”という現象がでてきます。緊張しやすくなるもいえます。

大事なこと、大切な事柄だから落ち着かないと……

そうおもうと気持ちがあたかぶってしまう状態です。

そこから解放されるには〔失敗してもいいさ——〕

という心境が必要です。そして……どん底に追い込まれると、開き直ることができる人です。

それゆえ、中途半端はよくないです。

“^ば場^な慣れ”という言葉があるように、どんなに大勢の前でも^な慣れていれば、緊張することなく自然にできるわけです。場馴れが必要な人です。

それには、自分が追い込まれた心の状態に追い詰める訓練を重ねる必要があります。

参考：場慣れ〔経験を積んで、場所や物事に慣れていること。〕

普通の人は土壇場で“もう駄目だ”となると、気持ちの張りを失って、開き直りができないのです。

しかし、鳳閣星中殺の人は土壇場になると、逃れられないと覚悟して、ふてぶてしくなれる人です。

緊張し過ぎた状態になると、落ちつくという事が起ります。

〔たとえば〕事故に遭^あって緊急事態になると、冷静になって身体が動くというような現象がでてきます。

そのときの自分を振り返ると「自分がなんであのような適切な処置ができたのだろう…」とおもうほどありのままに対応して、うごいた状態が起ります。

土壇場に追い込まれると強い人です。

鳳閣星中殺は「駄目でもともと」という心の状態になると強いです。

鳳閣星は寿命の星という意味があります。

鳳閣星中殺は寿命中殺といえます。

寿命中殺ですから、健康状態が不自然になります。

(長生き出来ない。と言っているのではありません)

ふつうは健康に気をつかうことで、病気を回避^{かいひ}します。しかし健康が不自然・不完全になっていますから〔健康に気をつけて、気をつかえばつかうほど〕

病気になるということが起きます。

〔たとえば〕健康維持のためにジョギングをしたりしていると、家にもどって気持ちが^{ゆる}緩むとポックリ死んでしまうとかです。

あるいは、健康食品などに気をつかって摂取したりしていると病気になるとかです。

それは健康への^{かんしん}関心そのものが不自然になっているために、必要なものを摂取せずに、不必要なものを摂取するとか、自分の体質と調和しない、合わない健康食品を摂取してしまったりとかです。それであるならば、自然の有機栽培の食物を食することのほうが有意義です。そこが原点だからです。

参考：関心〔ある事柄に特に心を引かれること。気にかけること。〕

人物は、子供・部下（目下）という意味がありますから、目下中殺という意味で、子供・部下に頼れない人です。子供・部下に縁の薄い人です。

陰占を勉強すると、人物をいろいろ探りますから、人体図には鳳閣星が1つしか出ていなくても……、陰占の場合は、そのほかにも子供がいるという場合があります。

陰占を学ぶことで、その意味を理解できます。

④ 調舒星中殺

調舒星中殺の人物は子供・目下・女性でその人達が中殺を受けます。鳳閣星中殺・調舒星中殺は寿命中殺です。

鳳閣星中殺・調舒星中殺をもつ人は、健康にまったく気をつかわないということではありません。

過度に気をつかう必要はないということです。

鳳閣星中殺・調舒星中殺をもつ人は、神経質になるからです。つまり、健康ということでは、そのことに対して過敏になる傾向をもちます。

それゆえ、自分の身体に合わない健康食品を購入して摂取したりするわけです。そのために、かえって不健康の元をつくりますよ。という意味合いです

日本の健康食品はアメリカの健康食品と比較して、効力に大きな差があるとおもいます。米国で、ハーブ、ビタミン・ミネラルなどサプリメントの勉強をした時期がありました。

米国の書店には日本では太刀打ちできないほど、健康食品に関する書物があり、その情報量は豊富です。以前は著名な自然食品店で製品を販売していましたが、昨今はインターネットによる販売が主流になっています。失礼しました。話をもどします。

調舒星を主星にもつ人は、その本心を理解されにくい星です。

伝達本能の陰ということもあり、伝達が間接的になります。そこに不自然な状態が存在します。

また、空想・夢想の質がありますので、心の中ではいろいろ思い考えますが、考えた部分の経過状況を相手にいわない（説明しない）ために、心底に不自然な状態がつくられてしまいます。

つまり、はじめと結果だけを言って、そのあいだに存在するはずの入りくんだ説明がないのです。

中間は空想領域になっている。といえるでしょう。

そのことに加えて、中殺を受けることで、その部分が異常に膨らむと考えてください。

参考：経過〔時間が過ぎていく、それに従って変化する物事の進みぐあい。〕

参考：状況〔さまざまに変化する物事のどきどきの様子。〕

参考：状態〔ある時点における人や物事のありさま。〕

参考：説明〔事柄の内容や意味を、よくわかるようにときあかすこと。〕

参考：自然〔人間本来の性質が破壊とか、ゆがめられたりしていない状態〕

参考：不自然〔人間として安定した心や行いなどを正しくなくする。〕

参考：破壊〔安定した状態を強固に保っていた姿などが徹底的に壊れる。〕

参考：心底〔こころのそこ。いつわりや飾りのないまったくの本心。〕

〔たとえば〕隣人^{りんじん}に自転車を貸してあげたとします。自転車を借りた隣人がうっかりして、自分の家の前に自転車を止めたままにしてしまったとき、そこから……調舒星中殺の独特な空想が膨張^{ぼうちやう}し始めます。それは「自転車を返してくれなかった……」ことが、あたかも推理小説もどきに膨ら^{ふく}んでゆくのです。隣家の人^{りんけ}が段々と大悪人になってしまおうとか、悪事を重ねているかのように、空想の広がりを見せます。『自転車はそちらの家の前に置いておきましょうか?』といわれたときに「どっちでもいいわ」と答えたのを忘れてしまったのかどうかわかりませんが、相手を悪者的^{あくてき}に想像^{そうぞう}してしまうことも起こります。それが受け入れられない状態が続くと、そのことで精神を病んでノイローゼという状態になりやすいのです。それゆえ、SF作家とか、精神世界に向かうと……見事な星です。

手塚治虫氏の人体図は、鳳閣星1つ、調舒星は3つあります。鳳閣星中殺も調舒星中殺もないです。

参考：想像〔実際には経験のない現象などを頭のなかにおもい描くこと。〕

* 手塚治虫 1928(s3)-11-3 1989-2-9 [60歳没]

	丁 壬 戊		調舒星	天堂星	2 癸亥
寅	未 戌 辰	鳳閣星	調舒星	調舒星	12 甲子
卯	丁 辛 乙	天南星	牽牛星	天印星	22 乙丑
	乙 丁 癸				32 丙寅
	己 戊 戊				42 丁卯
					52 戊辰
					62 己巳

手塚治虫氏の宿命は陰占の宿命中殺はないです。

〔たとえば〕調舒星中殺があるのなら、表現が不自然な作家になればよいのです。

現実的でない分野がよいですね。

あるいは、人体図に〔^{すいか}水火の^{げきとつ}激突〕があり、火性の鳳閣星・調舒星が中殺されている状態のときには、〔水不の激突〕が弱まるという話もあるのですが、激しい現象となって出るときもあります。

つまり、七殺で^{よくし}抑止されているときに、刺激されることで、一気に破裂するようなこともあります。

そのときは、その現象に激しさを伴って出てきます。

鳳閣星中殺は^{おだ}穩やかそうに見えますが、穩やかではありません。ハッキリしています。

鳳閣星には直接的表現という意味がありましたが、感情を出さないつもりでいると、感情が出てしまう。目立とうとすれば目立たずに、目立つまいと思うと目立ってしまうということが起こります。

〔調舒星〕にもこの質はありますが、調舒星中殺の人の場合は、ペラペラとお喋りになる人がいます。

お喋りになるときは、皮肉をいうとか、^{や ゆ}擲揄するとかもあります。そのようなときは、お腹に秘めた^{たくら}企みがないときです。そのときは、^{こころ うち}心の内になんのわだかまりもないのです。

反対に、黙り込んでいるときは、お腹のなかに……なにか発散したいことがあるわけです。

調舒星中殺の人が文句を言わないから、満足していると思ったら間違いです。

本心が伝わって来ない人、本心のわからない人です。おとなしいときほうが、胸内にいろいろな強い思いがあるのだ。ということを理解しないといけません。

調舒星中殺の人が、自分の気が済むと言わんばかりに自分のことを話すときは、まず面白くありません。自身に関することではなくて、他人の話をするときは、とても面白い内容になる特徴があります。

自分の事柄のときには、どうしても感情が入り込んでしまい面白くないのです。

干支における“伝達”は『自分が楽しかった』などの事象^{じしょう}を伝えることであり、他人の事象の意味ではないのです。それゆに、「日干」の自分から生じていくものが伝達になります。

参考：事象〔いろいろな物事や現象〕

調舒星は孤独の星です。

その特徴として自殺の可能性が1番強い星です。

調舒星中殺は、孤独が中殺されますから、自殺するときは孤独ではない状態をつくろうとします。

それは他人を巻き込む死に方になります。

何年も前ですが、池袋の西部百貨店の屋上から飛び降りた女性がいました。

その下に道路を歩いていた通行人がいて、その男性が巻き添えに遭ったわけですが、そのような死に方です。

彼女が調舒星中殺だったのかどうかわかりませんが、他人を巻き込む死に方というのは、孤独な死ということではなくなります。

どなたにも平等に天中殺はまわって来ます。

どなたにも天中殺はまわって来ますが、調舒星中殺のときは、そのようになりやすいといえます。

必ずそうなる——ということではないですよ。

調舒星中殺であっても、自分の宿命どおりに生きていれば、自殺することはないです。

『私死にたい……』などと騒いでいるときは、本心なのでしょうが大丈夫です。

覚悟が決まってしまうと黙り込んでしまいます。

調舒星中殺の場合はそうなると要注意です。

調舒星はもともと孤独の星です。それが不自然になるので、死ぬときには孤独で無い状態をつくろうとするため、他人を巻き込むということが起こります。自殺しなくても、交通事故で他人を巻き込んでしまふ死に方も含まれます。本人は死のうとおもっていなくても、そのようなことは起こります。

これらのことについては、後天運で調舒星中殺がまわって来てもおなじです。

⇒「生年中殺」または「生月中殺」をもっていて、宿命中殺を消化すれば、調舒星中殺がまわってきてもそうはなりません。

宿命中殺を消化していくことで、調舒星中殺がもつよい面を活かして、人生を歩めばよいでしょう。

中殺は不自然・不融合で異常です。調舒星は伝達の星でもありますから、ITなどは不自然な分野といえるでしょう。

皆様が^{いま}、^{このよ}に生存しているということは、ご自分の宿命における人生の^{みち}途で『なにかを』達成しようとして、能力や^{いしき}意識を働かせて生きています。そうでなければ生存できないでしょう。

『星を消化する』とよく言いますが、消化というのは、星の意味合いをつかっているということです。なにか不明であれば……まず人体図の知恵の場所に載っている星の意味合いをつかいます。

参考：意識〔自分や周囲の状況などをはっきりととらえる心の働き。〕

参考：生存〔生きながらえること。生きてこの世にいること。〕

知恵の場所〔第四命星〕に車騎星しゃきせいが載のっていたら、車騎星は行動の星ですから、自身が行動しているなかで知恵がうごき働きます。

自身が動かないでいると、知恵がまわらず働きませんが、忙いそがしくうごき行動することで、頭がよく回転するということが起こります。

それゆえ、勉強するときでも、じっと机に向かうだけでなく、身体をうごかすことは必要なのです。

学者でもジョギングしているときに、1番頭が働いてくるという人もいます。

散歩しているときとか、からだを動かしているときにインスピレーションが湧いてくる。という人物は多くいます。

そのようにして、車騎星をつかうとよいわけです。

知恵の場所〔第四命星〕にどの十大主星が載っているのかは、個々の宿命で異なります。

知恵の場所に載っている星をつかうことです。

＊ アンドレアス・ルビッツ 1987-12-18 [27歳没]

	辛	壬	丁		車騎星	天馳星	4	辛亥
辰	丑	子	卯	貫索星	鳳閣星	禄存星	14	庚戌
巳	癸			天印星	調舒星	天貴星	24	己酉
	辛						34	戊申
	己	癸	乙				44	丁未

🔍 十大主星表を参照するとよいですね

2015年3月24日「ジャーマンウイングス墜落事故」で〔150名〕が犠牲になっています。

スペインのバルセロナからドイツのデュッセルドリフ行き旅客機をフランス領内のアルプス中腹に激突させた。

9525便の副操縦士・アンドレアス・ルビッツは、2013年「癸巳」ジャーマンウイングスに入社して、パイロットになっています。

2013年「癸巳」は鳳閣星中殺の年です。

その前年2012年は「壬辰」で調舒星中殺の年です。

この宿命はさまざまに読めますが、算命学的には、これらの中殺が関係していないとは言い切れないのです。

⑤ 禄存星中殺

禄存星は人物として「父」という意味があります。
禄存星中殺は父親中殺です。父との縁^{えん}が薄いです。
父親という存在は、大黒柱でお金を稼^{かせ}いでくれる人
という意味もあります。
子供が生まれて、子供が禄存星中殺をもっていれば、
父親中殺の子供になります。
ということは、その子供が生まれたことで、父親が
不自然な状態になります。そうなりと一家は苦勞し
ます。それを“家系の衰^{おとろ}え”と考えています。

一家の大黒柱が不自然な状態になるのは、一家全体
が不自然な状態、もしかしたら路頭^{ろとう}に迷う状況が起
きるかもしれません。

その意味で、禄存星中殺をもつ子供は、家族の運氣
が衰^{おとろ}えるときに生まれます。

占うときには、禄存星中殺をもっている本人から親
を見て、その親を占うことにもなりますが、禄存星
中殺の子供を生んだ親のほうに責任があります。
禄存星中殺をもつ子供が悪いという考え方をしない

ことです。親の運が落ちるときに禄存星中殺の子供が生まれて来るということです。

『父との縁が薄い』ということは、父の仕事が駄目になったのか、あるいは病気で仕事が出来ないという状態を含めてです。

つまり、禄存星中殺をもつ子供が父親の運勢が駄目な状態をつくります。それによって、父親の運が落ちるのは、禄存星中殺をもつ子供にとって宿命どおりですから、禄存星中殺をもつ子供は将来成功します。

☞ 禄存星には「財」という意味があります。

禄存星中殺をもつ子供は、財が不融合・不自然という中殺をうけていますから、財（お金）で苦勞するということです。

父親の運が落ちて、子供がお金で苦勞すると『禄存星中殺をもつ子供は将来成功します』という話はできません。もし、こういう宿命で生まれたのに、父親の運勢が落ちないと、禄存星中殺をもつ人の運が落ちます。父親の運勢が落ちず、父親がお金でも苦勞しなかった場合には、禄存星中殺をもつ人の運勢が駄目になるということです。

☞ 禄存星は愛情の星ですから、中殺に『愛情中殺』という意味もあります。

禄存星は魅力本能なので、まわりの人を惹きつけるという意味があります。

男と女ということでは……中殺で魅力が意図しない状態になりますから、好きでない人を惹きつけるという状態を起きてしまいます。これは好きな人に誤解されるということです。自分がその人を好きになると、その人にぎこちなくなってしまうと、自然に振る舞うことができなくなります。そうすると、相手の人は——自分のことを好きではないとおもうわけです。つまり誤解します。

禄存星中殺は、好きでない人に対して、自然に振る舞えるので、禄存星の意味が素直に伝わりますから、相手は自分に好意があると考えます。そうすると、好きでもない人から好かれるという状態がつけられます。

好きな人にわざとつっけんどんな態度をとるとか、意地悪くする。ということもあるわけです。このことは子供にもあることですが、大人になるとそれが強く出てきます。

そのような状態を、自らつくってしまうために相手に誤解されてしまいます。

それがもとで、好きな人と結婚出来ないということになれば、それは自分に原因があるわけです。

⑥ 司禄星中殺

司禄星は家庭という意味があります。

司禄星中殺は家庭を不安定にする『家庭中殺』です。

司禄星には堅実・蓄積という意味もあります。

それゆえ、物事がある程度、蓄積されてきた状況になってから不自然になります。

禄存星中殺・司禄星中殺には「財中殺」の意味があります。

司禄星は『妻』という意味がありますから『妻中殺』になりますが、家庭の意味もあるわけです。

家庭は夫婦でつくりますから、男性にとっては妻ですが、女性にとっては夫という意味にもなります。

それゆえ『配偶者中殺』といえは適切でしょう。

配偶者ということは、夫でも妻でもよいわけです。

ただし、これは陰占いんせんの観方での話です。

本来、司禄星は妻としか取れませんが、それを少し拡大解釈していただいて、配偶者中殺でもよいということですか。どういうことなのかといいますと……

配偶者中殺は配偶者を頼れない状況がつくられます。配偶者を頼れないというのは、夫婦仲が悪い状態がつくられてしまうとか、妻に頼れないというのは、妻が病弱とか、遊び歩いている妻ということ。この現象が出るには時間がかかりますが、具体的にどのくらいかかるのか……正確に計^{はか}れないのです。5年、10年と時間をかけて出てきます。

☞ 配偶者中殺という意味では、結婚運が悪いということになります。

それゆえ、結婚運の悪い宿命のやり方をすればよいわけ。

それは国際結婚とか、10歳以上の年齢差がある結婚とか、再婚者との結婚でもよいし、再婚者で子連れであればなおさらよいとなるわけ。このことは学ぶ機会があります。これらはいずれも“感覚の違う人との結婚”という意味が横たわっています。

もうひとつは、宿命に司禄星中殺をもっている人と結婚するとか、牽牛星中殺をもっている人と結婚するとかです。

より広い範囲で解釈をすると、宿命^{中殺}同志の結婚

がよいといえます。

司禄星中殺（妻中殺）の人が、牽牛星中殺（夫中殺）をもつ人と結婚すると、悪い現象は出てきません。

『^{ざいちゅうさつ}財中殺』というのは、禄存星中殺も司禄星中殺もおなじです。なぜなら禄存星も司禄星も財の星です。お金が不自然だから、貧乏するということではありません。日常でつかうお金を『財』とはいいません。この場合の『財』というのは、貯め込むようなお金をいうのです。

それが不自然になりますから、自分の思うままにならないお金ということが起こります。

自分の思い通りにならない『財』です。

つまり、財産を自分の思ったとおりにできません。

そのように自分の思い通りにはできない財に^{えん}縁があるということです。

〔たとえば〕一生懸命に働いてお金を貯めました。それを使おうとしていたのに死んでしまった。

あるいは、自分のお金なのに、誰かに財布の紐を握られている状態とかです。そうなると、自分の自由にならない『財』ですから、自分の思いどおりにし

ようとしなければよいわけです。

自分の稼いだお金であっても、妻の名義にしてしま
うとかです。

そうすれば自分の思うままにならなくなります。

あるいは、隠し財産（自由につかうことのできない財）
であれば、^{おおやけ}公につかうことはできません。

このように自分の思うままにならない財を〔脱税す
るのがとても^{じょうず}上手〕なのは、司禄星中殺をもつ人で
す。

脱税するとは言い切れませんが、そのように^{たいしよ}対処す
る考えとか、やり方が^{たく}巧みなのです。

日常においては、妻にわからないようにへそくりを
するのは上手といえます。

参考：対処〔ある事柄、状況の変化に応じて適切な処置をとる〕

⑦ 車騎星中殺

車騎星は〔偏夫^{へんぷ}〕の意味をもちます。

偏夫は夫以外の男という意味ですが、夫という意味も含んでいます。

占うとき……女性の宿命にこの星しかない場合は、夫としてもつかいます。つまり、牽牛星がなくて、車騎星しかなければ、牽牛星（夫の星^か）の代わりとして女性の男、あるいは夫として観ることもあります。

☞ 女性の立場として、偏夫（愛人）のような男を頼れますか……つまり頼れない男と縁があるわけです。しっかりした男性に頼らないで、しっかりしていない男を頼ろうとすれば、結婚を誤^{あやま}りやすいのです。だらしない男性を好きになるとか、そのような男と関係を結べば、まわりから反対されるでしょう。それゆえ、恋愛で悩み苦しむ人ともいえます。

☞ 男性が車騎星中殺をもった場合は、女性に対して上記とおなじな現象をだします。

結婚に際して、妻として相応^{ふさわ}しくない女性を好きになるということが起こります。

車騎星は男性にとって仕事という意味がありますから、『仕事^{中殺}』ということになります。

車騎星は行動の星ですから、仕事をしているときの決断力に見事さがあります。

ところが——その部分が中殺されますから、肝心なとき、大事なときに、決断することができなくなります。

『重大な局面』のときに中殺現象が起こりますから決断が^{みだ}乱れます。乱れるのでよくよく考えて判断しようとするために、決断できずに迷ってしまうという事態になります。

車騎星は^{とうた}淘汰という意味も^{そな}備えていますから、通常は見事に決断していきます。しかし中殺されていると〔大きな山場〕というときに不自然になってしまい^{こんめい}混迷・^{こんめい}困迷が起こります。

宿命^{中殺}をもつ人にいえることですが、^{ばな}場馴れする必要があります。

参考：淘汰〔条件に適應するものを残存し、不用なものを除去〕

参考：混迷〔混乱して見通しが定まらない〕

参考：困迷〔迷いくるしむ〕

車騎星の行動を中殺するという意味では、中殺そのものが正常ではなくて異常ですから、^{なみはず}並外れた行動力を出せるということも起こります。

^{けたちが}桁違いの^{はたら}働き出せる世界に向いている人です。

オリンピックで優勝すると決めたら、異常でないと無理ですから、^{けっしゅつ}傑出したチカラを出して成す物事に向きます。

参考：傑出〔とびぬけてすぐれている〕

特攻軍人、スポーツ界、冒険家に向く人といえます。

車騎星中殺には、名誉中殺という意味もあります。

〔車騎星・牽牛星〕は名誉・名声の星ですが、そこが不自然になります。

この試合で勝ったら金メダルだとか、世界1になれるとか、思った途端に負けてしまう。ということがあります。

それゆえ『無心』でないと駄目といえます。

車騎星中殺で見事な冒険家やスポーツマンになれるには、勝ち負けにこだわらない^{きこん}気塊の備えが必要であると考えています。

エベレスト単独登頂に成功したら、評価・名声が上がるとかの^{ざった}雑多なおもいで^{いど}挑むと、あと一歩という

状況で、登頂成功から見放されてしまう人でもありと考えています。

競技試合でも、もうここで勝てるとおもうと、逆転されてしまう。ということが起こります。

車騎星中殺をもつ人がなにかに挑むときは、我が身を捨てる一念で、無心にチカラを絞^{しぼ}りきることです。ただひたすら、一心にその道に打ち込む姿がよいのです。

そのときは、見事なチカラを発揮します。

このことは仕事でもおなじです。

大きな仕事で業績が認められる機^き会^{かい}であるとし^しま^ます。そのとき——気負わないで、いつもどおりに淡^{たん}々^{たん}と仕事に取り組めば、見事な働き方になります。

しかし、認められようと意識してしまうと、不自然になります。

参考：雑多 [いろいろな種類のものが入りまじっていること。]

参考：機会 [なにかをするのにちょうどよいとき。]

⑧ 牽牛星中殺

車騎星で説明しましたが、名誉についての中殺現象は、牽牛星中殺もまったくおなじです。

車騎星は単独行動・個人行動の星ですが、牽牛星は全体として、統一を保っている集団の行動です。

集団の組織や社会は、規律を重んじなければならぬので、真面目でないと勤まらない面があります。牽牛星の質は真面目なので、どんなに不満があってもその仕事に取り組みます。

⇒ 人間社会で生きていく過程においては、どなたでも何かしらの不満があるかとおもいますが、この人は不満をださずに仕事に打ち込んでいきます。

その姿は仕事に満足して、懸命けんめいにやっているようにまわりからは見えるわけです。

たとえ不満が内在されていても、その気持ちを態度などに出さないため、その姿をみた限りでは周囲にわからないわけです。

しかし、胸裏きょうりにもつ不満がつぎつぎと重なって爆発すれば、仕事を突然や辞める。となるわけです。

☞ 牽牛星には夫の意味がありますので、家庭中殺という意味合いがあります。

家庭という状況を想定したときは、女性でも、男性でも、牽牛星を『夫』あるいは『妻』と解釈してください。

家庭中殺の内容を広げて考えますと……結婚生活なら、妻にとって家庭というのは組織であり体制です。家庭を維持するのが妻の仕事です。

妻が突然「離婚・別れましょう」といい出します。

家庭中殺は体制そのもの、家庭そのものを破壊しようとするわけです。

牽牛星の女性は家庭に沈^{しず}む不満があっても、夫や家族のためにつくします。

思い通りにならないことがあって、このようになればという気持ちがくすぶっていても、耐えています

が、前^{まえ}触れなく蓄積^{ふまん}されていた不満^{ふんしゅつ}が噴出^{ふんしゅつ}します。

参考：沈む〔望ましくない状態になって、気持ちが晴れなくなる。〕

参考：不満〔満足しないこと。ものたりなく思うこと。〕

〔たとえば〕夫が退職したときに、突如^{とつじょ}、怒り^{いか}をぶつけるかのように「退職金を半分よこしなさい」といって、離婚を迫る女性がいたとすれば——まわりは「えっ」と、驚きのまなざし向けるでしょう。

現在^{いま}まで、よき母・よき妻であったのに、パッと豹^{ひょう}変^{へん}して『離婚しましょう』といただいたわけです。

会社などの組織においても、不満が積み上げられて、破壊するような事態を招きますから、体制に対する裏切り者、そのような存在になる場合もあります。

♡ どのように生きれば良いのでしょうか。

わだかまり・不満があるときは……思ったことや、感じたことを言葉で伝えることです。

なぜなら、自分が言わないことに問題があるからです。

(ふつう理解できないでしょうが…) その人物とおなじ中殺をもっている人なら、何も言わなくても、心境をわかってくれます。

参考：わだかまり [心のなかにつかえている…すっきりしない気持ち。]

[たとえば] 上司や同僚で牽牛星中殺をもつ人がいれば、あるいは司禄星中殺をもつ人がいれば、相手の気持ちを理解できますので、不満がつのは少なくなります。

宿命^{しゅくめい}中殺をもっている人であれば、よく心情を理解してくれると考えてください。

中殺をもつ人の世界を、中殺をもたない人が理解することはできません。

世界が違うのです。

〔たとえば〕Aさんは宿命中殺をもっています。

Bさんは宿命中殺をもっていません。

このような2人がいます。

でも『Bさんに天中殺がまわってきました』となれば、おなじ世界に入ったわけです。

そのときなら、Bさんは、Aさんを理解できます。

理解できるようになります。

しかし、すべてとは言い切れませんがね。

☞ 後天運天中殺は、60年間経過すると、天中殺を全て経験することになります。

それゆえ、算命学はその過程かていにおいて人間性が成熟せいじゆくするはずだと考えています。

参考：過程〔進行していく物事の順序。またその途中の経過。〕

参考：成熟〔人間の体や心が十分に成育すること〕

⑨ 龍高星中殺

龍高星は人物で「偏母^{へんぼ}＝育ての親」という意味があります。

それゆえ、年代でいえば、目上の人になります。

親や姉妹でも、目上の立場になる人は相当します。

兄・弟でも自分を育ててくれた人は偏母に入ります。

龍高星中殺は、その両者の関係が不自然になるわけですから『目上中殺』です。

目上を頼ろうとしません。

自分が中殺している人物を頼れないから、頼ろうとしないわけですが、目上から見ると『生意気な』ということにもなります。

可愛げがないとも見られます。

上司・目上から見て、可愛いと思う部下・目下というのは、甘えて来るでしょうが、龍高星中殺の人は甘えません。その姿はまわりからは^{たくま}逞しく見えます。

⇒ 龍高星には、^{かいかく}改革という意味もありました。

改革が中殺されます。改革は—^{あらた}改めよりよくすることですが、そこに破壊と創造が存在します。

新しいものをつくりだすことは、古いものを壊わさないとできません。

龍高星には、破壊と創造が絶えずつきまといます。

古いものを壊して、新しいものをつくりだす段階でさまざまなおも^{おも}い・念^{ねん}がうごきます。

改革が中殺を受けて不自然になりますから、壊すべきときにつくり、つくるべきときに壊すという現象が起こります。

〔たとえば〕皆がやろうというときに、嫌だという人がいます。

皆が嫌だというときに、やろうという人がいます。このようなへそ曲がりな面があります。

そういう性質をもつと、当然、波欄に飛んだ人生を送ることにもなります。

龍高星中殺は、運勢の昇^{のぼ}り下^さがりの波が激しいといえます。しかし環境が不安定なほうが、やる気をだして実力の発揮できる人です。

環境が安定すると、精神不安定になり、環境が不安定だと精神が安定します。

これが特徴なので、不安定な環境が向いています。

⑩ 玉堂星中殺

玉堂星は母親（実母^{じつぼ}）の星です。

玉堂星中殺は両親を意味しますから『親中殺』です。
そして目上中殺ともいえます。

龍高星とおなじ知恵の星ですから、知恵が不自然になります。

〔たとえば〕よい考えをひねりだそうとすると出てきません。なんの気なしに考えているとアイデアがでてきます。

参考：ひねりだす〔さまざまに考えをめぐらしてやっと考えた案をだす。〕

参考：アイデア〔思いつき。着想。〕

参考：着想〔仕事・計画などの糸口となるような考え、おもいつき。〕

学校で成績を上げようと一生懸命に勉強していると成績が上がりにません。

成績を上げようと思わないで勉強していると、成績が上がります。

数学が好きなら、それが好きだから熱心に学ぶというのは、成績を上げようと意識していないでしょう。それが時代小説でもよいのです。

時代小説が好きで『将来は作家になる』ということで読んでいるうちに、さまざまな言葉のつかい方、文字の使い方、文脈の流れ、キャラクターの配置などを意識して読むようにもなるわけです。

玉堂星は保守的な知恵といえますので、一般的な学問に興味をもつ人です。そうであるのに、その部分が不自然になりますので、一般的な学問に興味を示さなくなります。

〔たとえば〕いままで時代小説を好んで読んでいたのに……それとは異質の世界、ファンタジーとか、霊的な書物とかにのめり込んで、それらを合体させて、だれも手をつけていないような分野を開拓したくなったりもするわけです。

主流派でない学問・作風といってもよいでしょう。玉堂星中殺の人は、まわりの人たちがこういっているととなると、それに反論を唱^{とな}えたくなる人です。

参考：保守的〔旧来の考えや伝統的なやり方にこだわり続けるさま。〕

参考：一般的〔特殊・特別ではなく、ふつうであるさま。〕

学者や研究者になる場合には、正統ではない異端的な立場になるかも知れません。

そのような意味合いがあります。

⇒ 十大主星の各星^{かくせい}それぞれに意味合いがあります。鑑定をするときは、鑑定依頼者の質問に^あ当て^は嵌めてその事象に関係する人物の生年月日から宿命をだして星を観てゆきます。

それらの人物は一人一人違う現象をもっています。依頼者の相談内容に^{そく}即して、各星の意味合いを^{じょうず}上手に適合させなければいけません。

〔たとえば〕お客様が玉堂星中殺なら、玉堂星中殺の意味合いを曲げないようにして、依頼者に伝えることが必要です。

参考：上手〔物事をする技術がすぐれていること。〕

鑑定に訪れるお客様はさまざまです。

占う側には占うときのやり方・個性が存在します。お客様のご要望に^そ沿って占うわけですが、占う側は固定観念をもたずに、星がもつ意味を壊すことなく、さまざまな観点から、星をつかってゆくことが大切です。

【初年】60回目【天中殺論(6)】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】61回目【天中殺論(7)】です。